

新編水滸畫傳

四編

四

21
875
34



門 遠 21
殊 875
卷 34

新編水滸画傳卷之三十四

東武

高井蘭山翁

譯編

明治二十三年
一月十日
購

○ 没遮欄及時雨を追趕

催命判官李立又宋江（リ）對（ト）長兄（ト）今江州（ト）の配所（ト）の移（ト）苦（ト）受（ト）
あらんあり。宜（ト）く此處（ト）小苗（ト）りあひて。身（ト）を安（ト）んド命（ト）を立（ト）之（ト）宋江（ト）が云向（ト）ふ
梁山泊（ト）の豪傑（ト）小再（ト）三再（ト）四懇（ト）小我（ト）を山陣（ト）小苗（ト）りあひて。我（ト）唯（ト）老（ト）
父（ト）の命（ト）小背（ト）ん（ト）と恐（ト）れく。終（ト）小辞（ト）し（ト）止（ト）らば。今（ト）又（ト）りん（ト）ぞ此處（ト）小苗（ト）り
んや。某（ト）原来（ト）心（ト）を決（ト）せ（ト）て（ト）まれば朝（ト）小配（ト）所（ト）小移（ト）る（ト）夕（ト）に死（ト）む（ト）も可（ト）
なり。大丈夫（ト）何（ト）の悔（ト）と（ト）あらん李俊（ト）が云押司（ト）ハ是（ト）當（ト）世（ト）第一（ト）の義（ト）
士（ト）あり（ト）バ必（ト）ぎ官司（ト）を誰（ト）く（ト）と（ト）を（ト）あ（ト）り（ト）あ（ト）ま（ト）ド。李立（ト）汝（ト）早（ト）く彼（ト）兩人（ト）此
下官（ト）をも同（ト）トく解菜（ト）を灌（ト）く（ト）こ（ト）を助（ト）けんや。李立（ト）忙（ト）く解菜（ト）を

把く下官ら口中小灌ぎ入る。二人の者夢の覚くる心地しく
 起上り互小面を觀合せ。只惘然と。呆れ在る。良久ヤク
 後友人同トク。宋江小對しく。此店の酒ハハ美酒あれを。
 僅救盃中しく。形人を醉しめ。我人後酒を飲ハ原醉し。ん
 為あきを。おく人を醉しむる酒を以く美酒とも名酒とも謂つべし。我ガ
 輩他日又此辺をさバ必此店小侍。宜しく三盃を酌。再び百
 念を忘れ醉卧ま。宋江ホ衆人此言を以て各一笑を催し。り。
 至夜ハ李立酒宴を設け。花人を款待。夜も更たれば皆。此家に一夜を
 取出し。宋江并小人の下官小還。これバ宋江深く是を謝し。乃ち
 李俊等と。この小嶺を下。李立小別を告。此小李立深く

別惜。暫く路を送り。立向。宋江ハ李俊童威。童猛。お人の
 下官らと嶺を下り。還。李俊ガ家小。先。小休。李俊悦。おと
 限。子速酒宴を設け。宋江と款待。乃ち義を結。八拜の交り。を
 誓。遂。宋江を兄。己を弟。李俊悦。びの餘。再。三。苦。宋江を
 留。やく。救日。想。め。宋江も。志。の。切。あ。を。感。ト。並。り。互。小。睦。ト。と。と
 同胞。の。と。既。小。宋江ハ。や。祭。足。せん。と。李俊小別。を。告。し。は。
 李俊今。ハ。苗。と。く。再。び。酒。宴。を。設。け。別。の。盃。を。勸。め。又。碎。銀。若。手。を
 出。し。小。人。の。下。官。小。与。へ。宋江。と。懇。小。頼。し。小。人。の。下。官。大。悦。く
 領。兼。せ。り。宋江。旅。粧。調。ひ。李俊。童。威。童。猛。小。別。を。揭。陽。嶺。を
 離。れ。江。州。を。望。み。進。む。小。人。の。下。官。ハ。宋江。ガ。形。人。小。敬。を。と。と。
 暗。小。是。を。感。ト。り。其。日。宋江。下。官。ら。せ。小。半。日。行。り。弛。て。未。の。上。刻。に。

一ツの街小至り。宋江此処をさるふ。人煙集て房屋並び列れり。
 宋江又百歩許ゆて對面をえり。一夥の人群り圍て何やらん
 見物しく在れば。宋江も亦下官らとせし。群人の内小挨入る。これを
 見ると乃ち一人の漢子鎗棒を使ひ。膏菜を賣者。宋江暫く
 是をえんと。彼漢子も鎗棒を使ひ。休。又拳を奉脚をえせ。く
 打拳の神妙を使ひ。宋江是は声を放て。大小喝米をり。此時
 彼漢子一ツの盤を拿て。四面八方小繞り。乃ち見物の人小向て云ふ。
 某ハ此度遠方より當面あり。偏小諸主顧を頼て。今日の當を做
 ん。欲も某が鎗棒眷頭。原来未熟中。人目を驚し。ひる足らば。
 然ども諸主顧を慰ん。浪りふ。これを使ひ。も覽小。偏入り。
 筋重膏の入用も。救錢を投て。これを求め。我が此筋重膏ハ

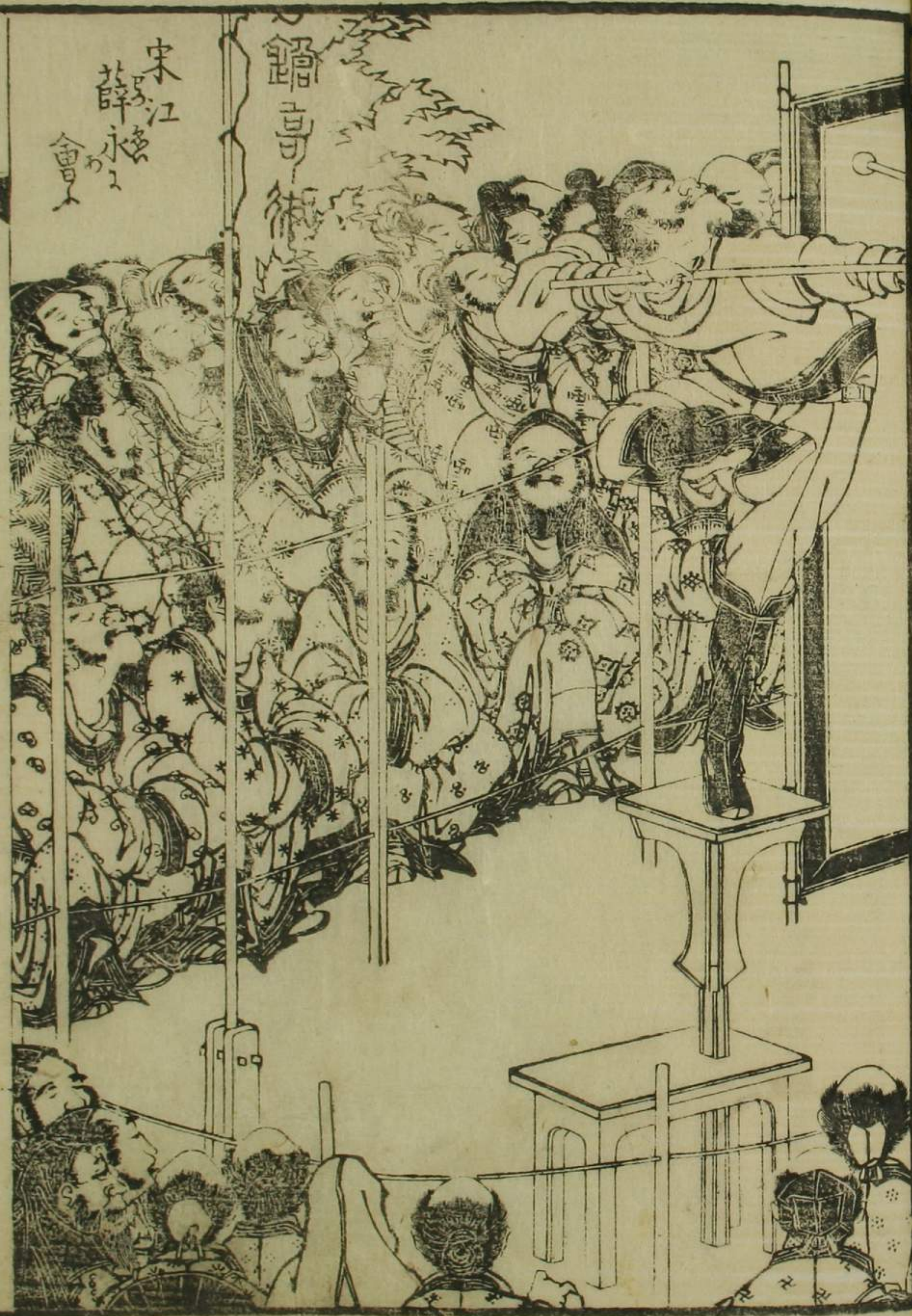
是双びあき名膏之。必む世間の膏小比。一列。えか。て。あ。れ。
 後ひ膏の入用。あ。れ。も。某が。之。き。當を。助。ん。と。思。ひ。一。錢。半。錢。を
 論。ぜ。盤。の。内。に。投。入。も。某。幸。ひ。諸。主。顧。を。集。り。も。膏。を。買。り。ん。と
 する。ハ。恰。も。空。の。山。に。入。る。も。ど。い。何。ぞ。と。空。しく。回。ん。や。願。く。も
 諸。主。顧。我。が。此。盤。の。内。に。錢。を。満。し。め。と。累。小。六。七。遍。繞。り。を
 錢。を。投。る。者。一。人。も。あ。り。彼。膏。を。賣。漢。子。又。呼。り。云。ふ。ハ。望。ら。く。ハ。見
 物。の。諸。主。顧。も。く。も。も。と。奉。ひ。も。志。し。の。一。錢。半。錢。を。去。り。也。此。時
 見物。の。者。ど。り。尚。眼。を。白。々。と。し。曾。て。一。錢。を。も。賞。せ。ざ。り。ん。宋。江
 此。光。景。を。見。ん。心。中。小。想。ひ。も。ハ。彼。漢。子。も。鎗。棒。を。使。ひ。願。く
 言語。を。尽。し。唯。一。錢。の。賞。を。も。受。ざ。り。ん。豈。自。ら。是。を。慚。ら。ん。我
 り。り。く。の。見。物。人。小。替。つ。く。彼。を。賞。せ。ん。と。則。一。錠。五。兩。の。銀。を。取。半。と

宋江
薛永
會

鐳哥術

新編水滸傳卷之三十四

四



新編水滸傳卷之三十四

三

膏を賣漢子小對して、これこれ呼り云々、我ハ是罪を犯し、配
所、趣く流人かれハ、教頭を賞まると能は、只此五兩の銀を足下に
送る間、少し枉少を嫌は、さきを收め、我大悦ま、すて則銀を与へ
し、うの彼漢子此五兩の銀をゆえ、うや恭しく頓首して云々、かかく大ひ
掲陽鎮を、唯一一人も人を穢豪傑、あわ、ま客ハもと身
官司の、預預り配所、趣趣き、あ過往却、某某五兩の銀を、某某
あ、他他の五百、ああり、猶猶を、忝忝な、願願く、某某官の、姓姓
大名を承、徳徳を天下、小小傳人、宜宜しく、姓姓名を知ら、宋宋
江、云云教頭、何何ゆゑ、再再三、懇懇の言を云、何何ゆゑ、這這等の、爲爲儀、何何の
謝、もも、わわ、んんと、未未ど、云云も、罷罷ら、ざざ、一一人の、大大漢子、忽忽ち、群群人の
内、より躍出、乃乃宋江、小小向、く叫、り、何何ゆゑ、何何ゆゑ、罪罪人

あれハ、ああ、我我、がが、掲掲陽鎮の、威威風を犯、しし、傍傍若、無無人の、舉舉動を、犯犯し、我我、此此、掲掲陽鎮、小小
彼膏、茶茶を、買買、漢漢子、只只、這這等の、武武藝を、知知る、のの、をを、我我、此此、掲掲陽鎮、小小
来、く、鎗鎗棒を、使使、ゆゆ、甚甚、どど、ゆゆ、悪悪ん、づづ、一一、此此、ゆゆ、多多、我我、諸諸人、小小、云云、合合、て一、錢錢
半、錢錢も、施施、ささ、めめ、ささ、外外、汝汝、罪罪人の、身身分と、當當地の、人人を、欺欺、き、擅擅、小小、銀銀と
、彼彼、小小、汗汗を、握握、り、此此時、宋宋、江江、ハハ、早早く、これこれを、避避、て、某某、自自ら、銀銀、をを、
、彼彼、小小、賞賞を、汝汝、何何、ぞぞ、干干、すす、とと、ああ、んん、至至、益益の、怒怒りを、起起、はは、しし、彼彼、大大、漢漢子、
、益益、怒怒、く、又又、拳拳を、拳拳、足足を、亮亮、せせ、宋宋、江江、小小、打打、く、蒐蒐、り、宋宋、江江、今今、ハハ、止止、とと、同同、
、同同、トト、く、拳拳を、論論、し、相相、迎迎、へん、とと、外外、彼彼、膏膏、茶茶を、買買、入入、教教、頭頭、背背、後後、よりより、
、走走、り、来来、り、て、彼彼、大大、漢漢子、がが、頭頭、巾巾、とと、上上、條條、とと、掛掛、へ、地地、上上、小小、痛痛、く、投投、ぐ、彼彼、漢漢子

大い吼再び起上らんとせしむるも彼教頭又脚を擧て踢倒し尚痛く
 打んとせし処お主人の下官忙しく勸解教頭を抱住れば彼漢子漸に
 扒起り宋江教頭二人を足で罵りたるハ汝主人好も我を打めよ必刻
 我が段を見せん必む此を走るとありれとて南を望んで馳移るを
 宋江頓く彼教頭小問云々を願くも教頭の姓名を報じぬ答て
 いそぐ某ハ本河南洛陽の者なり姓ハ薛名ハ永と号に某が祖父ハ
 老神經界相公の幕下ありし軍官ありし者不幸なりと浪々此身と
 あり某今鎗棒を使ひ膏菜を以て渡世の當と人皆某を称し
 病大畏薛永と云慣せり貴官の言姓大名ハいつん宋江云我ハ是
 姓ハ宋名ハ江と号し鄆城縣の者之薛永が云貴官ハ山東の
 及時雨宋公明と云人ハあつばや宋江が云某則ち宋公明之薛永也

敢て忽ち地上小拜伏して云々ハ名をばいハ面をばい如も面をばハ名をば
 ありも勝似滅ふ希有の大丈夫とぞ感歎轉頻に宋江忙しく扶け起して
 云々ハ教頭いぞ我をおいぬ宜く先酒店に至る三盃を酌んり我を
 棄ぬらん早くも事多し薛永が云某久しく華顔をおせんと願ひも
 縁熟せば一日を延ばさず今日も風を觀せしは天の賜りの豈
 あつて命違ふ違ふやと忙しく鎗棒膏菜ホを收拾め乃ち宋江に
 隨て一軒の酒店に入り酒店の小厮出迎へて云々ハ貴客我店にお
 めあち定めて酒肉を求めあらんとてこれ我々店の酒食ハ貴
 客にお賣つたも一軍一他の店にお移してこれを求めぬ宋江問て云何ゆゑ
 酒食を我にお賣つたや小厮が云貴客先にお尋ひて申しおひぬ大漢子
 人を馳せ云々を若貴客ら此処にお尋ひ酒肉を求めぬれば必賣つてある

道中の馬うまありあるがれば。假令たとひ旅宿りよを租かりしもも頗おもろ心こゝろを安やすんだじと。
宋江そうかう云い馬うまありあるがれば。假令たとひ旅宿りよを租かりしもも頗おもろ心こゝろを安やすんだじと。
宋江そうかう云い馬うまありあるがれば。假令たとひ旅宿りよを租かりしもも頗おもろ心こゝろを安やすんだじと。
一宿いっしやくせんふ我われ小こ随まりきりと。三人さんにん齊いっしくと馳かりて二里にり許りの路ちをまりて。
クバくもも林はやしの背せ後ご一いつ間まの大家だいが簪かんざんへる。宋江そうかう此こゝ大家だいがをまりて前まへハ
村むら塙たは臨のぞみ後ろを岡おか小こ倚よ杖すゐの揚あげて柳やなぎ緑ろくやう煙けむりりと含あひこめ
百頃ひゃくぎんの桑くわ麻あ青あおくく雨あめをたりし。石いし墻かべの上うへをまりて牛うし羊ひつぎ陣ぢんをありて芳
塘たうの内うちをまりて鸞らん鴨あひ群ぐんをありて真まこと小こ富とみ饒にぎはなる光景あき之の此こゝ時とき宋江
お入いり下官げととり小家かのまへに門かどをたりて。一人ひとりの家か僕わく門かどをたりて
走はり出乃すなはち宋江そうかう小こ問とふ云々いハ汝らハ誰たれ人ひと也や。夜よ中ちゆう中ちゆう門かどをたりて
くや宋江そうかう茶ちやしく答て云々いハ某ハ是罪つみをかりし。流人りゅうじん配所はいじよ江州かうしゆう小
趣おもくものん今日こんにちハ想て江馬うま取とり旅宿りよをまりて。此こゝのももも

炎宅えんたくを借かり一夜いちやをまりと欲ほしく望のぞみし。憐れんれん家僕かわく云いハ小こ
かのどとハ少くも待まちて我まし主ぬしの太公たこう告つて再次さいし内うち小
入いり未ど暫くもせざふ又走はり知り云々いハ主の太公たこう告つて肯て一宿いっしやくを
借かりせんと宜しく我小こ随まり入りて。遂つひ小こ宋江そうかうハ三人さんにんを延て草
堂だう小こあり一処いっしよ主ぬしの太公たこう也や。宋江そうかう見みえ乃ち家僕わくら小命いのちじて宋江
下官げらを房ふ間ま小こ導みせ又酒食しゆじきを進めし命いのちトく々々家僕わく小こ頗おも
宋江そうかうを引き房間まの内小こあり則ち琉璃るり燈とうを点て宋江そうかう前まへに設け
まり酒食しゆじきを半く三人さんにん小こ食たべし。遂つひ小こ器きを収拾しゆじつし外面がいめんにおきて。友
人りゆうじんの下官げ宋江そうかう對たいして云い々いハ此處こゝハ殊更さら人ひと也や。汝なんぢ小こ押おし司の頭かぶを
除のぞくと間身まみを寛げ後ろを歌うたひて。頭かぶをおり宋江そうかう大だい小こ悦よろこび
頗おもろ人ひとの下官げととり小淨じやう手て小こゆて天あまをまり星光せいこう雲うんを披ひて

明くあり宋江又房間の外をさへ此処か一つの小路をたれが宋江此
 路を眼の内小看置たり。三人又房間の内へ入る門を閉し各床の上へ
 登りて打卧尚雨降りて云々幸ひは主の太公我が輩を苗れをを
 今宵ハ斯心を安んじて睡る。却る馬駄の打火店ありも大勝似とて
 将小眼を合せんとせし処ハ房間の外大門の前ハ火の光さへく人音を
 一々宋江暗小戸の縫間より。こもを望みたる主の太公二三人の家
 僕ハ把火點とせ。親自四方八面を揮照して適く見廻り用心緊れ
 光景ハ宋江低言て友人の下官ハ語く云々主の太公全く我が老
 父ハ似て家内の用心究く嚴く我ハ老父も亦今時分ハ自ら火把を
 照し家内を見廻し一々覺え候候を合たり。形も処ハ門外ハ教人の
 声とて門を開けと鳴りて彼家僕忙しく門を開き一処ハ五七人の漢子

門内ハ進み入りぬ其内の頭と覺て一漢子ハ手ハ朴刀を提す餘の者
 其ハ毎手ハ棒を拿ぬ宋江再々大漢子を好く彼頭も大漢子ハ
 今日揚陽鎮ゆく争ひをあり漢子之此時太公ハ大漢子ハ問て云
 汝ハ何事の処也。誰と争ひをあり。夜中ハ形棒を提刀を提噪動ま
 彼大漢子云大人ハ我ハ兄の居る所ハ知りぬ。太公云汝ハ兄ハ老
 成りしうども大酒解即ち前後も省に。後亭の上ハ打卧ぬ善き所ハ
 明日の沙汰也。彼大漢子云某急ハ兄を喚起し共ハ馳り仇人を追
 かくべし太公云汝ハ誰と争ひを惹出さん。兄を呼び起さんと云うぞ。女
 若汝ハ兄を殺しを必定人を殺し火を放き大をぞ做出ま。汝まづ
 争の所以を我ハ告知せよ。大漢子云大人ハ未だ何の事も。今日鎮
 上ハ於て一人の漢子鎗棒を使き膏菜を買ふ者あり惣トて是れ

商賣をなげ者ハ先我ハ兄弟ハまゝに後揚陽鎮ハ杖ヲ鎗棒又ハ打拳
 中もせよ人を集む高ひととある今日膏菜を賣ハ男子ハ曾々
 我ハ兄才を訪ハ擅ハ揚陽鎮中鎗棒を使ひハ我鎮上にて
 命ト諸人ハ半銭ハ賞を惠ハ然ハつゞこの所ハ流人
 傍若無人ハ只独出夫乃ち五両の銀を以テ彼鎗棒を使ハ漢子ハ
 賞ハ我ハ此揚陽鎮の或風を戒ハぬこのゆゑハ我ハ流人を打んとセ
 処ハ鎗棒ハ使ハ膏賣暗ハ後より我ハ我を踢倒ハ大ハ辱ハを蒙
 せリ我ハ是を憤ると骨髓ハ徹ハ終ハ仇を報ハ恨を雪んと欲ハ揚
 陽鎮の酒店大火店等ハ解ハ彼流人ハ宿を借ハ後ハ彼今宵路ハ
 迷ハ石と追詰ハ討んと図ハ健ハ漢子ハ催ハ先膏を賣漢子ハ
 方ハ客店を捜ハ遂ハ痛ハ救ハ十鞭打ハ今都頭ハ家ハ

梁ハ吊置ぬ明日彼を粽のどハ捆即ち江中ハ沈ハ這恨を雪ハ
 唯流人ハ方ハ未ハこれを捉ハ遍ハ酒店打火店ハを捜ハ
 乃れども曾ハ消息ハ此故ハ我兄を呼起ハ共ハ趕ハけハ欲ハ
 太公の云汝何ハ非道ハ彼流人自銀ハ膏を賣漢子ハ
 惠ハ一ハ點の厚意ハ汝何ハこれハ関ハ汝今日彼ハ打ハ
 之ハ身躰傷ハ只宜ハこれを忍ハ穩便ハ静ハ汝ハ兄弟方一
 汝ハ人ハ打ハ立ハ汝ハ相ハを捜ハ性命ハ害ハ
 今宵ハ快ハ歌ハ必ハ半夜三更ハ
 弛ハ門を敲ハ戸を打ハ村中の人ハ鬧ハ汝ハ必ハ
 陰徳を積ハ陰徳ハ彼大漢子父ハ諫言ハ
 耳ハ入ハ則ち朴刀を提ハ後亭を望ハ入ハ父太公ハ同

トク後へ小隨之馳入り。宋公此言を詳小受て大驚き則て人の
 下官ら小對し云々。我が禍つらんだかこのどく毒悪なるや。何
 仇を免んとし却て仇人の家小宿を借めると命の拙き所以。然
 るに三十六計走るを上計と爲し云々。我が輩只軍一處を逃入
 り。彼漢子我が輩此小在王を知らば必定性命を害はべし。後以父
 太公我が輩がことを云々。とも家僕ホワんでこれを云々。畢竟此處小
 憩ひし。あく用意を調へ走る。主人の下官らが云押司の言尤可
 事已小此小到る。一刻も遲疑まらぬに速小忍び出せ。逃れん宋江が云我
 輩若大路より逃バ必だ過有人只此壁を鑿孔を明此處より小路を馳
 と。宋江自ら柵を提下官あ人ハ包袱を負ひ三人暗小用意を調へ遠小
 壁の上小大ひ小穿を削三人相續て鑽出一時程やく前面をさす。小
 葦

葦は茂く茂て江中充滿しぬ此處ハ則ち陽江に移る處。遙背後より
 若干の人の声とて賊配軍走るとわれと叫り。毎々火把を揮照し
 危がごとく。趕す。宋江を捉て云上天某を棄あらん。一命を救ひぬ
 と。三人同トく葦葦の内小入る身を躲し。暗頭を將りて背後の方を
 望み。火把漸々近き。宋江ホ三人のり。肝を消し魂を落し。
 又葦葦の内を肥廻り。穩小身を藏さん。づ。知しやあ。只顧みぬ。小
 此處ハ本大江の側の湾港中。尤希有の悪所。此時宋江大嘆息
 云々。我子くもわ。禍あ。を知らば只梁山泊小留り。一命を全やく。
 再び時を過ば。老父へも孝を尽さんものを。誰か織ん。今此處小於て非命
 死を遂んと。嗚呼時あり。嗚呼命あり。頻り心を悩。小
 彼追趕の者ども。前面小。宋江已小危急に臨し。處



老んやう
 浔陽江よ
 宋江難小
 値小



忽然と一艘の小船、芦葦の内より漕出、宋江忙しく向ひ進み
 云々。つゝ船家長我々輩三人を奪ひ去り、命を救われん
 然らば我重く汝を賞せし。船家長が云、汝三人ハ原何人ぞ何ぞ
 処よりこの地の地へ移んと此小舟。宋江が云、背小強盗、我が輩を
 追ひしめ、直ち走て、汝早く船を貸し我輩を渡し。我輩を
 我多く金銀を以て此勞を謝せん。船家長此一言を聞き、心中悦び
 則船を漕、岸辺に着、宋江三人忙しく船の上へ跳乗、先吻と
 息を續り。此時二人の下官包、祇蘊を把く、船艙の内へ投入、又一人
 下官ハ水火棍を以て急小舟を横開き、船家長ハ槽を搭て船を
 揺し、暗小彼包、祇蘊を投、音好く響き、とて心中これ奪ひ
 とんと関り、大悦び、迷小舟を江心へ揺出せ、処岸の上の一夥の人

早く灘の辺へ追至り、十四五の火把を揮照し、頻り喊き叫ん、躁
 動も、内首と二人の大漢子、各多小刀を提げ、外二十餘人の若
 せも、都く鎗を拿棒を拽口、大音揚、呼り、汝船家長を
 船を漕、回せり、然らば汝も共殺せ、宋江ハ二人の下官と保
 船の内へ隠れ居、云々。船家長必も船を漕、回も、然らば
 我重く汝に金銀を与、此恩を謝せん。船家長只頭を點、口に
 應へ、只顧上流を望んで漕、岸の上の諸人、これを見て、大
 云、船家長汝、何ぞ船を回、必も汝も共殺さん、時後悔も
 あり、船家長これを見て、大冷笑、尚船を漕、上流へと走り、
 岸の上の若、大焦燥、汝船家長直、かくの、大膽、
 速小舟を漕、返り、禍ひを免れ、船家長冷笑、答へ、我ハこれ張

長が歌の意ハ必定蹀躞あらん。寂疑しきこととて。三人暗に後論
區くある処ハ彼船家長俄に櫓を拖起り船の前ハ走り寄則ち宋
江ハ三人ハ對して云々。汝ハ三人一人ハ流人二人ハ監押の若と見え
たり。先汝友人の監押の若ハ常罪人をつとむ。多くの賄賂を貪り
専ら不仁のこをわけて己を利せんと欲せし大悪人。又一人の流人を
原官軍とてこが這回罪を犯して流人とせし。定めく不善にてを
あしき疑ひあり。三人板刀麵を食せんと欲し。又餛飩を食せ
思ひや。宋江打笑て云足下ハ何の戯れと云ゆ。や。板刀麵と餛
飩ハ世人皆これを好んで食する者多し。とて。船中ハ於て焉んぞ
くく。こをほんや。船家長大に怒り云我ガ云の板刀麵と餛飩とハ
世間ハありおと同トク。汝ハ一挺の名刀あり。乃ち此刀を以て汝ら

水中ハ斬込を名けく板刀麵と云。又汝ハ衣裳を剥取赤條の糸にて
江中ハ推込を名づけく餛飩と云。汝らが望み依るを於て。宋江
此言を聞き大に驚き即ち友人の下官ハ對して云々。八城ハ古の語也
福双ハ。禍單ハ。今宵我身の上ハ初見。嗚呼拙き
運命なりと嘆息して止ざり。船家長又怒て云汝三人宜しく
高嶺を遂ぐ。死を速めよ。宋江ガ云我ハ是罪を犯して江州ハ流さる罪
人なり。汝ハ一點も慥の心あり。我が輩ガ一命を饒せ。船家長眼を
睜開て云汝何ぞ面皮厚きことを云や。三人ハ板置き半人ハ饒ます。
我ハ是張爺と云者中。汝ハ人を殺し。火を放ち。浮世を樂しむ。
汝ハ如何に妄想を起し。命を助らんと欲するをわれ。宋江又哀しむ
告ていそ。我々が包袱の内ハ。金銀財帛衣服ハ救を尽し。汝ハ

与とぞと聞唯命斗を助け。船家長も敢て明晃と云ふ刀を
 抜出。大に怒り吼て。汝三人多く詞を費さん。快く死を被れ。
 此時宋江天を仰ぐ。歎と云ふ。我素より天地を敬せ。父母の
 孝あり。罪を犯し。身を亡し。と云殊と。幸ある。お人の
 下官。小連累を蒙ら。我あふ。忍びん。やと。流る。泪を
 恰も降る。雨のごとく。二人の下官。宋江。向く。云。ハ。押司。悲と。あふ。
 一と。我が。葦。押司。と。一。死。か。是。則。ち。今。生。の。本。望。何。を。再。三。
 これを。痛。まん。や。船。家。長。又。大。呼。て。云。汝。三。人。を。衣。裳。を。脱。ぐ。
 水中。小。跳。入。れ。り。然。ら。ば。我。此。刀。を。以。て。水。中。小。斬。入。ん。と。て。自。
 中の。刀。を。輪。へ。閃。り。を。宋。江。ホ。三。人。互。小。相。抱。き。已。小。江。
 中。小。跳。入。ら。ん。と。せ。一。処。小。江。面。小。櫓。の。音。響。き。一。艘。の。小。船。

飛。ぐ。く。潜。り。る。船。の。上。や。三。人。の。漢。子。あり。内。一。人。の
 大。漢。子。ハ。船。の。表。小。立。た。れ。バ。二。人。の。漢。子。左。右。小。分。る。櫓。を。揺。し。
 宋。江。が。乗。る。船。の。前。小。あり。彼。大。漢。子。先。大。音。声。小。呼。り。云。ハ。
 吾。船。ハ。雅。船。あり。此。処。小。於。く。私。小。商。賣。を。あ。は。し。や。船。の。上。の。貨。
 我。小。こ。も。を。分。ぶ。を。這。船。の。船。家。長。暫。く。頭。を。擡。げ。彼。船。の。大。漢。子。を
 見。る。が。忽。ち。打。笑。く。云。く。我。ハ。只。雅。船。と。疑。ひ。し。小。李。長。
 兄。の。船。あり。長。兄。も。定。く。小。兒。商。賣。と。て。こ。を。此。迎。也。と。出。あ。ひ。の
 らん。小。何。ゆ。多。我。を。携。へ。も。多。ゆ。彼。大。漢。子。が。云。わ。く。云。ハ。ハ。張。大。哥。
 敬。み。あ。く。を。あ。ら。じ。や。汝。此。処。小。在。て。独。自。ら。福。を。得。る。人。也。船。中。の
 貨。重。く。と。ん。と。戯。し。たり。

○船火兒夜得陽江を鬧れ

宋江を乗せし船家長答て云。今宵不圖福ひを求めらるるが若しこれを
 語りしを長兄も掌を敲く笑ひめやうん我頃日博奕し輸ては錢の
 下稍も多し。独寂寞やう。灘の辺に漂ひるる処に岸の上の一夥の人
 来り。三人の漢子を尋ねる。この三人の漢子。芦葦の内より出り
 我亦来らる。やと。他に我を許し。来りし物。頗る物
 覺る。包袱づつを投て。漂くと耳に裏ぬ。かの大漢子。まう向
 て云。三人は。何者なるや。船家長答。吾人の下官一人の流人を
 監押し。来りし。が原何國の者。知らし。江州の流人。語
 りぬ。又彼を追て。岸の上の者。乃ち揭陽鎮の穆家兄弟
 二人。彼ら兄弟も。必定此流人が物あると。奪ひ。計りし
 疑ひ。彼大漢子。これを。忽ち驚く。云。江州の趣く流人と

云ハ恐らく。我義兄。あるが。何と。疑り。云。され。宋江船
 艙の内。在る。彼大漢子。が声を。少く。慣。声あり。忙
 救ひ。彼大漢子。宋江と云。二字を。大驚き。慌く。云。叔
 こと。我が。義兄。宋押司。あり。絨。危き。急難。云。終ら
 ざら。宋江。船の内。走り。星の光明。乗。彼船を
 兄。果。一人の大漢子。船の頭。立。出。則。混江龍。李俊。之
 友人の。船を。揺。漢子。ハ。一人。出。同。蛟童。威。一人。翻江。童。猛。之
 此。李俊。宋江の。二字。を。大。驚。忙。此。船。乗。移。則。宋
 江。が。身。を。携。へ。云。長。兄。危。難。逢。恐。怖。受。受。ひ。ん
 某。今。遅。く。必。定。長。兄。の。性。命。を。誤。づ。今日。某。家。在



舟中
舟中
舟中



宋江
張橫
金
金
金

舟中
舟中
舟中

うも。顔おもてり胸むね躍たはり坐立安んまず。自みづから心を慰なぐさめんが為ために一葉ひとひの船ふねを
 棹ことこして。此こゝ辺あたに漂たひ来きり。想おもひ長兄ちやうけい不あい。此こゝ急いそ難がたを救すくふと偏ひとに
 天あまの引ひ合あせし。先ま宜よろしく心を安やすんだめし。悦よろこぶと限かぎなく。彼かの船家ふねや長ちやう
 此こゝ光景こうけいをみ。只ただ惘然むげんと呆あはれ暫しばく声こゑをもあらりし。漸おそく漸おそく納なめ
 李俊りしゆん不あい。云い。李長兄りちやうけい。此こゝ流人りゅうじんをあらし。宋江そうけいと云いふ。但ただ山東さんとうの
 及時雨きふくう宋公明そうこうめいやあらし。李俊りしゆん云い。這人こゝれや。及時雨きふくう即すなはち彼
 船家ふねや長ちやうと云いふ。忽たちち柁かじをあらし。云い。及時雨きふくう宋長兄そうちやうけいや
 あらし。姓名せいめいをしらし。己おのれ仁兄にけいの命いのちを
 害あせんだとせし。金かねく知しらし。過あやち。願ねがふと罪つみをあらし。宋江そうけいをあらし
 李俊りしゆん不あい。云い。ハ此こゝ豪傑ごうけつのな姓せい大名だいめいハし。李俊りしゆん云い。長兄ちやうけい未いまだ
 知しらし。則すなはち此こゝ直家ちか傑けつハし。某たがと義ぎをあらし。誓ちかし。兄あに才さいハし。原もと来より小孤山せうこさんの下したの人ひとやし。

姓せいハ張名ちやうめいハ横よこ俾へい婦ふハ船火ふねび見けんとす。此こゝ潯陽江そんやうけい在ある。こゝのとを
 のとをあらし。活いとす。宋江そうけい此こゝ時ときお人ひとの下官げくわんとす。覺おぼへし。一ひと笑わらをあらし。催もよほししり。
 こゝのとをあらし。二ふた艘さうのと小船せうせん繩なわをひきし。相あ罷たひ直ただのと僧そうとす。離りのと邊へにあらしり。
 則すなはち宋江そうけい并ならびし。お人ひとの下官げくわんをたけし。岸きの上うへらし。李俊りしゆん又また張横ちやうよこ不あい。對たいししり。
 云い。我われ常じやうお賢けん弟ていとす。語かたりし。天下てんか弟てい一ひとのと義士ぎし山東さんとうのと及時雨きふくう鄆城ゆんじやう
 縣けんのと宋押司そうおしハし。今日けふ天あまより良縁りやうえんをあらし。假かりしし。相あ見まへし。好このく面おもてをあらし。
 怒いか置おんだ。張横ちやうよことす。再またハし。沙さの上うへにあらし。拜まが伏ふしし。云い。某たが常じやうに
 李長兄りちやうけいとす。押司おしのと大徳だいとくをあらし。仰あんだ。慕こひし。今日けふ偶あらし。顔かほをあらし。
 喜よろこぶと望のぞみ外ほかにあらし。雀躍せきやくハし。勝かちし。伏ふしし。望のぞみし。毎まい日にちのと罪つみをあらし。
 免ゆるしし。宋江そうけい忙いそがし。礼れいをあらし。張横ちやうよこをあらし。身みのと丈たけ七しち尺じやく餘あまりし。やしり。
 お眼めのと光ひかりりし。星ほしのととく。鬚ひげハし。左ひだり右みぎハし。別わかれし。腮あごハし。垂たりし。相あらし。貌かほ凜りんとす。

威風堂々。張横又宋江を問く云く。長兄ハ何ホの罪を犯し
 多ひく江州へ流されぬや。李俊此時宋江が罪を犯し。次第を
 備細に語り。張横は。張横大に歎。心中より宋江を
 憐れ。乃ち又宋江に語て云く。某同胞の弟一人。尤勇や。と
 あり。相貌賤しく。全身雪より白く。と言語。水の上に
 浮む。四五十里あり。尚俵は水の底に沈む。七日七夜。更に
 痕に。武藝ハ名あり。師は後。全く練熟せり。人皆彼に倅名をつけ。浪
 裡白跳張順と称す。當初某兄弟ハ唯此陽江に在て。世は
 業を。業を。銭財を求めぬ。宋江が。世に稀。業といふを
 願く。張横が云某兄弟。若博奕。輸
 時ハ某先一艘の船。乗る岸。返り。乃ち船賃を狂く定む。

乗合の客を渡す。彼怪各商人ハ。船賃の狂きを悦ぐ。先を
 争ひ。群り。乘此時弟張順も。詐る。旅客の幹。粧ひ。同トく。乗
 合の客。雑る。船。乗客。已に満ぬ。時。某船を半江の内。漕出
 乃ち右の。刀を。技持。左の。ハ。藍を提。緒の客。對し。三貫
 又の。銭を求め。今日ハ。船賃を。狂く。定む。船を急ぐ
 べき。間。此賞。として。乗合中より。三貫文の。銭を。贖。賜ふ。
 若然らば。決して。船を。動さ。ト。先張順。問。銭を。求む。
 張順。詐る。大に。某を。罵り。既。争を。惹出。互。拳を。挙。打
 合。某。頃。張順。を。捉。江中。に。投。落。尚。眼を。怒。諸の。客を
 嚇し。是非。三貫文。を。求。一。船の。商客。ハ。張順。が。今。水中。に。投。落。され
 大に。驚。き。忙。しく。三貫文。を。捧。て。我。と。与。ふ。我。此時。船。を。岸。に。

着く客らと上りむ。張順ハ水底ハ湊入して。岸上り。暗小乗
 合の客ホガ。四方へ散て去を待く。兄弟公けハ此錢を分取各又博
 奕の宿おろく賭をあら。是則世ハ稀ある業ハ宋江をばて又問て云。
 足下兄弟今ハ此商賣をあら。張横ガ云。今ハ某ハ此業を改め某ハ
 唯得陽江の内ハ海賊をあら。弟張順ハ今江州ハ在て魚を商賣ハ
 長兄果ハ江州ハ到りある。某一封の書を寄弟張順ハ押司の
 ことを告知せんと欲へども。只恨らくハ某文字を知らざるゆ多書簡哉
 修と能ハ李俊ガ云。我輩村里ハ弛く。一人の先生を頼。書ハ簡を
 修と能ハ宜しく我ハ隨く来りある。則童威童猛と苗ハ船を
 守セ李俊ハ張横と其ハ宋江ハびハあ人の下官と引。五人同く
 村里と望て馳来り。樵半里許ハ弛く。對面をさハ若干の炬火猶岸の

上ハ在り。明亮ハ張横と見。岸の上ハ火把あるハ必定彼兄
 弟未ど回らざる覺へ。李俊ガ云。彼兄ハ云ハ雅あるハ張横ガ云。
 掲陽鎮の穆家兄ハあ人の正。李俊ガ云。果ハ穆家ハ兄ハあハ
 我ハ彼らとハ宋押司を拜謁さ。宋江該ハ賢ハ弟の
 大ハ不可ハ彼兄ハ我を捉へ殺さんと云。いんぞよく相見せんや。
 李俊ガ云。長兄ハ必ハ心を安ん。彼兄ハ弟ハ長兄を知。凡
 一列の人と。彼らハ原我ハ輩ハ一路ハ若ハ必ハ長兄を敬。只
 宜しく我ハ任。李俊願。大音声ハ吸り。彼火把を拿。夥の人ハ
 李俊ハ前ハ。李俊張横恭。宋江を。左右ハ侍。彼兄ハ大ハ驚。長兄ハ
 人ハ。此流人を

そ敬しあつた。李俊大に笑て云足下兄弟此流人を誰と思ひぬ。兄弟の若が云我輩亦と誰と知らざれ。彼今朝揭陽鎮に在る。彼鎗桿を使ひ膏菜賣ふ五兩の銀を賞し。我揭陽鎮の威風を威しぬ。我此ゆゑ彼を捉へんと欲す。李俊が云我常足下兄弟を結ぶ。徳を吹嘘し。山東の及時雨宋公明と乃ち此人の。汝友人の天下才一の英雄を識んとあふ。更ふ。この時を待ん。快く下拜せし。那兄弟才も敢て忽ち身を翻し。地上伏拜し。再三頓首し。云々。某ら兄弟押司の大名を素より久し。今日幸ひ。顔と拜謁し。何の悦び。これ。あ。願く。押司を犯せ。罪速に。免し。宋江急。兄弟の者を扶け起し。云。何為かく。懇懇の言。及ん。願く。兄弟の大名を知し。李俊が云。此兄弟。兩人。家。

富隆と。速近は。隠れ。其。豪傑。則。兄を。穆弘と。号し。没。遮。欄。と。諱。名。以。才。を。穆。春。と。号。し。小。遮。欄。と。諱。名。せ。り。乃。揭。陽。鎮。を。覇。て。威。を。諸。人。の。上。に。振。ふ。我。此。外。に。三。覇。と。中。て。三。箇。玉。を。覇。る。者。あり。押。司。ハ。未。ど。こ。を。織。多。某。今。具。小。浩。り。中。さん。揭。陽。の。嶺。の。上。下。ハ。某。と。李。立。と。を。覇。す。一。覇。と。海。陽。江。ハ。張。横。張。順。の。兄。弟。これ。を。覇。て。一。覇。と。掲。陽。鎮。ハ。穆。弘。と。穆。春。兄。弟。これ。を。覇。て。一。覇。と。凡。則。此。三。ヶ。所。を。覇。る。者。を。名。づ。け。當。地。ハ。三。覇。と。ハ。中。に。宋。江。と。大。悦。び。乃。ち。穆。弘。兄。弟。小。對。し。云。果。し。李。俊。が。云。どう。ん。皆。自。家。の。昆。弟。也。此。上。ハ。尺。かの。薛。永。を。我。に。還。し。穆。弘。兄。弟。云。薛。永。と。か。の。膏。菜。を。賣。く。鎗。桿。を。使。し。漢。子。が。と。か。ん。渠。ハ。向。小。客。店。より。尋。出。し。痛。く。救。十。鞭。の。つ。く。梁。の。上。に。吊。起。置。

困く陽江に沈んとせしが、必刻これを饒し押司に還しきらん。
先宜しく私宅に導く。三盃を進め申さん。願くも押司の歩を移し
多し李俊が云は大不可し我押司を練め俱に往べしと已に領堂
しこれ。穆弘やぐ二人の家僕を遣く童威童猛兄弟を替く船を
守らしめ。則童威兄弟を遣り退へ緒の豪傑一同に穆弘が館へと
急ぎ入り。穆弘兄弟の先人を家へ回し。預け酒宴を美しく設け
しぬ。已に宋江に打連く。穆家へ入りし時、五更の初め
各草堂の上へ登りし処に穆太公も亦草堂へ入り。宋江は對面し
賓主座を分て返り列坐せり。宋江暗かか穆弘を認るる面を
銀盆に似く身ハ玉頭のや眼ハ圓や眉ハ細く相貌ハ端然
威風嚴然なり。宋江此軒を認り独自に心中に悦び。緒の豪傑

談話の事久しうな天色已に明く鳥の声後園に噪し。此時
穆春彼膏賈薛永を延く草堂へ入り。同く一処に参合し穆弘
頃く酒宴を草堂へ具へ懸懸に宋江を款待新く飲酌を催し
されば其日の夜皆穆弘が家へ在り各身の上を徑りし事説話し
覚へて紅日又西山に沈みれば。其夜の都く穆家へ一宿し。翌日
宋江別を告ぐ打立んとし。穆弘兄弟肯く饒るに再應扯
笛く逗笛させ緒の豪傑とて不恭しく宋江を導く。揭陽鎮の街へ
遊行し。名所旧跡一々を觀せしめ。翌日宋江又辞別不及さんと
きくを穆弘兄弟苦く笛め。一連三日滯留し。宋江深く
日限の差あんとを怕れ。再四別を告ぐれば。穆弘兄弟終く笛を
と能く。其日又豊く酒宴を設け。宋江を餐應。半夜に宴

罷り各一間入る歌こり。翌日宋江未明不起。旅粧を調へ則ち
 穆太公并小諸豪傑小別を告。又薛永示し。賢才ハ普く穆
 家小救日逗留。頓く後より江州小来。消息を通し。弟をせよ。穆弘
 兄弟云長兄必む心を安んども。我ら兄弟肯く薛永を憐み。諸事
 宜しく商錢を遂後より江州小き。宋江これをせ。顔色殊更
 悦び。穆弘兄弟戯と。一盤の金銀を宋江小送り。又若干の碎
 銀を商人の下官小与。張横ハ人を頼く。一封を修へ宋江小寄。才の
 張順ガ方へ送り。宋江揚家父子へ懇情を厚謝し。下官とせ。立出。諸
 の豪傑直ハ浔陽江の辺小あり。則一艘の船を假く。宋江ハ三人を乗。小
 流皆別を惜。互ハ涙を洒ぎ。遂ハ海陸小袂を分。諸の豪傑ハ
 再び穆弘ガ館小あり。そ夜各私宅へ。宋江配所小到着。の

次ハ次の巻をん。明をり

或人のゆ。此巻中船火兒張横ガ船小。宋江と下官商人を乗。送。小
 漕去歌を唱。五言絶句一章出。然く宋江諸豪傑小別。小
 江州の配所小趣。小依。張横才浪裡白跳張順。小書。送
 送ん。小字を織。自ら書。能。人を頼。書簡を修。あり。
 尤。歌ハ唱。古句。昨夜華毛来。越。我。云
 當。意。の。口。此。書。の。作。者。の。意。ハ。ん

新編水滸画傳卷之三拾四畢

新編水滸畫傳卷之四

新編水滸畫傳卷之四

宋江是ヨリ 梁山泊ニ趣キ 晁天王ニ逢フ

我輩等奈ニ其意見見皆安事ナラ

此書中一節欲以予業ト云
輩一ノ

余ハ 釋台 團 想

